

「殺してはならない。」

ある方から、質問をされました。「人の家にドロボーに入ると、人の悪口を言うのと、どっちが悪いと思いますか?」「ドロボーに入る事だと思います」と答えましたが、その方は言いました。「ドロボーに入られて、自殺する人はいるでしょうか?いないですね。でも、自分の悪口、陰口を言われて、自殺する人はいるかもしれませんね。どちらが人を傷つける罪かと考えれば、おのずからわかりますね。」何気ない言葉、ひとことによって、人を殺してしまう事があるのです。気を付けなければなりません。

「・・主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」(ヨブ記 1:21B 節)

大きな災害によって、家族を、そして何もかも失ってしまったヨブ。しかし、彼は語ります。「主はご自身の素晴らしいご計画によって、人の生命を造られ、また、取り去られた。その素晴らしい御業をほめたたえよう。」

パウロも語ります。(ローマ 1:36 節)「すべてのものが神から発し、神によってなり、神に至るのです。この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。」

さて、神様は、人のいのちについて私たちに語られました。「殺してはならない。」

今朝は、このみことばについて学びましょう。

「殺してはならない。」これは「人殺しをしてはならない。」ということです。動物を殺しても罪にはなりません。もちろん、それは人間が生きるためであって、人間のなぐさめのために殺してはいけません。もちろん虐待もいけません。しかし、人間はどんな、いかなる理由があっても殺してはならないのです。

なぜならば、人間は神のかたちにかたどって造られているからです。神からの永遠不滅の魂を持っているからです。人のいのちは地球よりも重いのです。そして、その貴さには全く差別はありません。

——— いのちの貴さについて ———

では、3つの角度からいのちの貴さについて学びましょう。

・第1に、自殺をしてはなりません。

多くの人々は、私のいのちは私のもの、と思っています。そうではありません。いのちそれは、神様のものです。いのちは神様から預かっている、与えられているのです。ですから神様から預かっているいのちを、自分のものよりも大切に守って、育てて、管理していかなければなりません。どんな事情があっても、自分で自分の都合で自由にはいけないのです。他人を殺すのも、自分を殺すのも人殺しです。ですから、自殺は罪です。

日本では、このほかに無理心中というのがあります。「私がいなくなったらこの子は・・」

と悩んで、親が我が子を殺すのです。でも、子どものいのちは親のものではありません。繰り返しますが神様のものです。親は神様のものを預かっているのです。ですから自分の自由にしてはいけません。最近、老々介護などで、老人が老人を殺すケースもあります。

・第2は、人を虐（しいた）げてはなりません。

人をいじめたり、虐待してはなりません。でもどうでしょう？ 私たちは、他人の生命を、人格を人として扱っていない時があるのではないのでしょうか。他人の人格を否定し軽く扱い傷つけ2度と立ち上がれないような事をするのです。4つのポイントで学びましょう。

・その1、人間は人をよく差別します。人種差別の問題は世界中にあります。日本人でも昔、東南アジアの人々を差別しました。日本人同士でも、部落の方々をまた、職業や学歴など、いろいろな所で差別が起こります。この他にも民族問題があります。強国は小国を圧迫し、白人は黒人を虐げています。しかし、神様は人間を絶対に差別しません。福沢諭吉は言いました。「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず。」

・その2、自分の利益のために、人をかえりみないこと、粗末に扱うことがよくあります。人を利用することしか考えない人もいます。

例えば、工場の危険をかえりみない工場責任者。労働者の健康をかえりみないで酷使する資本家。有害な色素を食品の中に混ぜる製造主。この様な、人のいのちをかえりみない人々は、神様の前では立派な人殺しです。」例え、世の法律では裁かれなくとも、神の前では、彼らは立派な殺人罪で告発されるでしょう。

・その3、精神的な暴力について考えてみましょう。ムーディ先生は言いました。「親をひと思いに殺した息子は絞首刑になるが、長年の間、不幸に不幸を重ねて少しずつ精神的に追い込んで、早死にさせてしまった息子も又、同じように、親殺しの罪を犯したのです。」

いつか、ある団地で起こった出来事です。何人かの主婦が「あの親子はドロボーだ」と言いふらしました。その母と子は、自らの身の潔白を訴えるために、近くの線路に飛び込んで自殺しました。その母と子の家に、一枚の紙切れが残されていました。「私たちは盗んでいません」ことばで人を、死に追いやる事も出来るのです。母と子の悪口を言いふらした多くの婦人たちが警察に殺人罪で逮捕されることはないでしょう。でも、神様は天の法律によって裁かれるのではないのでしょうか。

・その4、無関心であってはなりません。人に興味を示さない無関心です。私は、よく自分の中に、教会の中にも、社会の至る所に無関心の罪を見ます。人類で最初に殺人を犯したカインの言葉が聞こえて来ます。

（創世記 4:9）「主はカインに言われた。『あなたの弟アベルは、どこにいるのか。』カインは

言った。『私は知りません。私は弟の番人なのではないでしょうか。』」例えば、あなたのすぐ隣に伝道出来る友がいても「私には重荷がありません。」と言って、その人を無視してしまう。「私がそこまでしなければいけないの・・」と、つい言うってしまうのです。でも、小さな子供が崖の近くで遊んでいたら、誰もが大声で「こっちに来なさい、そこから離れなさい」と大声で叫ぶでしょう。見て見ぬふりすることは罪なのです。黙っていることは殺人に等しい罪です。私たちの中にもカインの様に冷たい血が流れていないでしょうか。

・第3は、怒って、人を憎んではなりません。

神様はいつも人の動機を見られます。イエス様は言われました。

(マタイ 5:21、23)「昔の人々に対して、『殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に対して怒る者は、だれでもさばきを受けなければならない。兄弟に『ばか者』という者は最高法院でさばかれます。『愚か者』という者は火の燃えるゲヘナに投げ込まれます。」

ヨハネも言いました。(第1ヨハネ 3:15)「兄弟を憎む者はみな、人殺しです。」

実際に、私たちは自分にひどいことを言った人をなかなか赦すことは出来ません。心のどこかで、その人が不幸になることを期待しています。

そして、「あんな人いなくなれば、・・」とつい思うってしまうのです。でもその思いは、人を抹殺する思いであり、殺人者と同じ動機です。どうでしょう。受験の時のライバル、恋愛の時の三角関係、嫌いなタイプの学校の先生、いじわるをする先輩、等々。当てはまりませんか？ 私たち自分の前から人の消えること、いなくなることを望んでいますね。

以上、私たちは「殺してはならない。」のみことばで自分を見つめて来ました。確かに私たちは、人を赦せない者、愛せない者、憎む者、無関心な者なんですね。だから、神様は私たちに向かって言われます。「**殺してはならない。**」「殺人者と同じ心を持ってはならない。」

でもイエス様は、冷たい殺人の罪を持っているような、私たちを愛しておられます。そんな私たちの罪を赦すために、私たちの罪の罰を全部引き受けて十字架の上で、身代わりに死んでくださいました。イエス様は、他の人の血を流すことによってではなく、ご自身の血を流す方法によって、私たちを殺人の罪から救って下さいました。今は、このお方を信じている私たちの中に、この方の赦しの熱い血が流れています。ですから、恐ろしい罪に負けそうになった時は、信じてこのお方、見上げましょう。

(第1ヨハネ 3:16~18)「キリストは私たちのために、ご自分のいのちを捨てて下さいました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから、私たちも兄弟のために、いのちを捨てるべきです。・・・子どもたち。私たちは、ことばや口先だけではなく、行いと真実をもって愛しましょう。」